

## 平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	住居論(Theory of the dwelling)		授業コード	C087551
担当教員名	西村 謙司		科目ナンバリングコード	
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	建築コース (選択) インテリアデザインコース (選択 必修) 環境・地域創生コース (選択)	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	建築設計を志している人は必ず履修すること。建築を学ぶ意欲があることが履修条件です。			
受講心得	講義の内容をその時間内に理解するよう心がけること。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるため厳禁です。目と手だけで受講するのではなく、目と手と耳、その他の感性を縦横に発揮して受講して下さい。			
教科書	教科書は用いず、毎回、配布する資料を元に授業を進めます。			
参考文献及び指定図書	適宜紹介します。			
関連科目	建築計画など			

授業の目的	住居のあり方について講義を行います。住居の成立構造を機能・空間・造形に着眼して説明します。講義は多数の建築写真、建築図面を用いて、ビジュアルに行います。各自の設計手法確立の一助となることを期待します。
授業の概要	住宅の歴史と計画のあり方に関して講義を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：住居論概要</b> 住居論に関するオリエンテーションを行います。また、現代住居の課題について説明します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第2週：世界の住居 1</b> 自然条件に対応する住居の形態、住宅の形態を変化させる要因、風土的な建築などについて解説します。特に東アジアの住居を見ていきます。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第3週：世界の住居 2</b> 自然条件に対応する住居の形態、住宅の形態を変化させる要因、風土的な建築などについて解説します。特に東南アジアの住居を見ていきます。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第4週：日本の住居史 1</b> 日本の住居の変遷過程を学びます。生活様式と住宅の平面の関係に関して解説します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第5週：日本の住居史 2</b> 日本の住居の歴史的変遷に関して解説します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第6週：日本の近代住居</b> 日本における近代住居について、近代化の動向に即して説明します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第7週：欧米の近代住居</b>	

欧米に建てられた近代住居(コルビュジエ、ライト、ミース)について説明します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第8週：住居・住宅の目的</b> 我々の生活の基盤となる住居・住宅の目的について再考します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第9週：戦後の住居史</b> 戦後から現代に至る日本の住居史について説明します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第10週：住宅の種類</b> 現代住宅の種類に関して解説します。現代住宅の体系的理解を目指します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第11週：住宅設計プロセスと住空間調査</b> 住宅設計のプロセスとその企画調査に関して説明します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第12週：住宅の構成</b> 住宅の内部空間構成に関して解説します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第13週：各室の計画</b> 住宅の居室の理想的なあり方に関して解説します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第14週：住宅と家族生活</b> 住宅と家族の関係性とライフプランに関して解説します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>第15週：集合住宅</b> 集合住宅のあり方に関して解説します。	配布プリントの読解 関連分野に関する図書 閲覧
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式 「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式
	(3)アクティブ・ラーニング
<b>地域志向科目</b>	該当しない
<b>備考</b>	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	配布プリントはワークシート形式になっています。授業中に示された内容に沿ってブランクに適切な用語を記してください。それによって専門用語を習得します。
<b>【知識・理解】</b>	日本の住宅の歴史を体系的に理解する。住宅の居室の特徴に関して理解する。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	自らの住居を検討し、図面にて表現する。
<b>【思考・判断・創造】</b>	住居の成立構造を機能・空間・造形に着眼して体系的に理解する。

<b>○成績評価基準(合計100点)</b>	合計欄	100点
------------------------	-----	------

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	10点
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		30点	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		30点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		20点	
<p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	原則として毎回、配布したワークシートの提出を求めます。また、中間、期末等にレポート課題の提出を求めます。達成水準の目安は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	授業の中で、適宜質問をします。優れた解答をした者は、記録して加点することがあります。